

結果公表用

様式（評価機構フォーマット版）

平成27年度  
自己評価報告書

平成28年6月30日

呉竹鍼灸柔整専門学校

# 目 次

1	学校の理念・教育目標	1
2	平成27年度の重点目標に対する結果評価	2, 3
3	項目別評価	4
	基準1 教育理念・目的・育成人材像	5
	基準2 学校運営	5
	基準3 教育活動	6
	基準4 学修成果	6
	基準5 学生支援	7
	基準6 教育環境	7
	基準7 学生の募集と受入れ	8
	基準8 財務	8
	基準9 法令等の遵守	9
	基準10 社会貢献・地域貢献	9
4	次年度（平成28年度）の重点目標・計画	10

# 1 学校の理念・教育目標

教育理念	教育目標
<p>本校の教育理念は、創設者の建学の精神を基底とし「人類の保健と伝統医学の発展に寄与し、広く社会の信頼と尊敬を得る医療人を育成することによって社会貢献を果たしていく」こととしている。</p> <p>創設者である坂本貢は大正八年に漢学専門塾師範科卒業後、医学を修得すべく上京したが、自らの病が原因で郷里に帰り療養することになった。この時、近代医学の限界を悟り、東洋医学、特に鍼灸医学の重要性に目覚めた。鍼灸医学が正式に日本に伝来したのは6世紀とされているが、少なくともこの時期から江戸時代までは、我が国の正当な医学は漢方と鍼灸であり、これらが国民の保健を担ってきた。</p> <p>しかし明治時代に入り、漢方、鍼灸は西洋医学に取って代われ、大宝元年（701年）に制定された大宝律令の医疾令以来脈々と受け継がれてきた鍼灸医学教育も衰微の一途をたどっていた。これらの背景が、呉竹学園の創設（大正15年の東洋温灸医学院の設立）の原動力となった。創設者は自ら多くの医師の指導を受けながら臨床能力を高めると共に、体系的鍼灸医学教育機関が皆無の状況の中で、教材作りに取り組みながら後進の指導にあたった。さらには、経験医学的鍼灸医学を西洋医学に負けないエビデンスを示す必要性を感じ、東洋医学研究所を設立し、伝統医療の研究に尽力した。</p> <p>同時に専門教育を行う当時の各種学校の社会的位置づけ、教職員の資質向上をいち早く提唱し、他分野の教育関係者と共に教育改善運動を展開した。昭和24年には東京都各種学校協会を設立し、昭和36年には社団化、社団法人東京都私立各種学校協会の初代会長となった。この活動は、後の学校教育法の改正、即ち、専修学校法の成立につながり、全国専修学校各種学校総連合会の設立という結実を得た。</p> <p>伝統医療の復興と専門教育の発展のために創設者が実践してきた一連の活動はその後も受け継がれ、現在の呉竹学園の行動指針となっており、理念の実現に向けて教職員一丸となって取り組んでいる。</p>	<p>本校は、左記の理念に基づき、伝統医療を通じて人々の健康の保持増進及び疾病障害の治療を担うことのできる「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師、柔道整復師」を育成するために、知識、技術、態度といった基本的臨床能力の確保に加え、医療に従事する者としてホスピタリティーに富んだ人格陶冶に力を入れ、患者貢献を実践できる人材育成を目指している。また変化する社会環境・社会構造に対する問題解決力、多様な社会ニーズ・患者ニーズに対応できる臨床力を涵養することにより豊かな人間性と使命感、倫理観を有する資格者を輩出することを方針とし、次の教育目標及び育成人材像を掲げている。</p> <p><b>【教育目標】</b> 十分な知識・技術・技術・臨床力を身につけ、柔軟な思考力を持った全人的な医療を施すことができる懐の深い医療人を育成する。</p> <p><b>【育成人材像】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の心と体を癒すことができる医療人としての人格を持つ人材</li> <li>2. 医療を行うにあたり必要な知識、技術と十分な臨床力を身につけた人材</li> <li>3. 医療を通じて、広く社会に貢献できる人材</li> </ol>

最終更新日	2016年6月30日	記載責任者	建石 泰三
-------	------------	-------	-------

## 2 平成27年度の重点目標に対する結果評価

重点目標・達成計画	達成状況・課題等
<p>＜重点目標1＞ 社会ニーズを踏まえた授業の充実化 平成27年から設置した「特修コース」では、超高齢社会やスポーツ人口の増加など医療を取り巻く環境の変化に対応できる人材を育成するために必要な授業を計画していく。</p> <p>＜重点目標2＞ 臨床教育の強化 (1) 教員の臨床力の強化 ・教員自らが附属施術所にて臨床に積極的に携わることにより臨床力を研ぎ、教育現場に還元する。 ・業団等が主催する勉強会、研修会に積極的に参加し、専門技術、知識の習得に努める。 (2) 学生の臨床力の強化 ・初年次から臨床現場の実際の様子を見学させ、医療人に相応しい素養、自覚を早期に身につけさせる。 ・インターンシップ対象企業を拡充し、学生がより多くの治療院、企業等に参加できるようにする。 ・臨地実習の一環として、メディカルステーションでのアシスタント業務に参加し、実際の障害に対する対応等を身につけさせる。</p> <p>＜重点目標3＞ 中途退学者数の低減 (1) 教員の指導力の向上 ・退学要因の一因となる学力低下や問題を抱える学生などへの対応にあたるため、教育センターでの勉強会（FD活動）を通して、教員の指導力やコーチングスキルの向上を目指す。 (2) 学生の資格取得への意欲向上 ・学生自身が将来展望を描けるよう、外部企業や卒業生の協力によるキャリアガイダンスを年次毎に実施する。 ・入学後すぐに臨床教育の現場に触れさせることにより、モチベーションを向上させる。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>	<p>＜重点目標1＞ 社会ニーズを踏まえた授業の充実化 平成27年度から設置した「特修コース」において、栄養学、スポーツ障害・テーピング、介助の授業を実施した。今後も引き続き授業内容の検討を進めていくとともに、特修コース以外の学科への対応についても考えていく。</p> <p>＜重点目標2＞ 臨床教育の強化 平成27年度は「臨床教育」を掲げて教員の臨床に対する意識を高めるとともに、「教員の臨床力向上」と「学生の臨床力向上」という2つの観点からアプローチを進めた。課題としては、インターンシップ及びメディカルサービスステーションのボランティア参加は関係法令上、正規授業として実施することができないため、学生参加率をどのように向上させるか検討が必要である。次年度以降も継続的に取り組み、臨床教育の強化を図っていく。</p> <p>＜重点目標3＞ 中途退学防止への取り組み 中途退学防止に対しては「教員の学生に対する指導力の向上」と「学生自身の資格取得に対する意欲向上」を掲げて取り組んだ結果、平成27年度の退学者数は前年度と比べて7名減少した。一方で経済的な理由で退学した者が6名増加していることから、中途退学の要因、傾向等を詳細に分析するとともに、学費減免等も含めた学生支援を施していく。 資格取得への意欲向上では、就職に対する意識付けを行うため、1年次に意識調査（就職・進路面談カード）を実施し、その結果を踏まえて対策を講じていく。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ)</p>

重点目標・達成計画	達成状況・課題等
<p>(前ページの続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修の到達目標を明確に示し、到達状況を確認できるようにしていく。</li> <li>・1年次の退学者が最も多いことから、初年次教育のあり方を見直す必要が出てきたため、退学要因や学生の学力格差を早期に調べ、必要な教育サポートを検証していく。</li> </ul> <p>(3) 学生の精神面のサポートの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の精神的な面では、担任だけでなく複数の教員で対応できるようにする。</li> <li>・試験成績や出席率など保護者と連絡、連携を取りながら対策を講じていく。</li> <li>・教育方針や学校行事などを保護者に案内し、学校教育に対する理解、協力を求める。</li> </ul> <p>&lt;重点目標4&gt; アウトカム基盤型教育への転換及び教育の質保証に向けた取り組み</p> <p>社会構造・社会ニーズの変化、医療を取り巻く環境変化に対応するためには、従来までの積み上げ式の教育や資格取得を目標としたアウトプット型教育では十分とは言えないため、資格者の未来を想定した学校教育のアウトカムを明確にし、資格者が社会に出て存分に貢献・活躍できるように教育内容やカリキュラム編成の見直しを行っていく。</p> <p>&lt;重点目標5&gt; 学生募集活動の強化</p> <p>学校乱立や少子化(2018年問題)などにより今後さらに入学志願者の獲得が厳しさを増してくることが予想されることから、他校と差別化できる本校の教育の特長、魅力をホームページやパンフレット、SNS等を通して入学志願者やステークホルダーに対して十分に周知するとともに、学生募集支援システムを活用した入試広報の強化を図っていく。</p>	<p>(前ページの続き)</p> <p>1年次の早期に学力試験を実施することで学生個々の学力を早い段階で把握し、対策を行っていく。</p> <p>成績や出席に関しての情報を保護者と共有し、連絡を取りながら学生指導を行っている。また保護者にも学校の教育活動をより詳しく理解して戴けるように学校行事の案内送付、公開講座・学園祭等の参加案内を送付している。</p> <p>&lt;重点目標4&gt; アウトカム基盤型教育への転換及び教育の質保証に向けた取り組み</p> <p>各学科の責任者メンバーを定期的に招集し、アウトカム基盤型教育に向けた科目編成、授業時間などの検討を行っているが、平成30年4月からカリキュラム改訂が予定されているため、その制度改正も踏まえて継続的に内容の議論を進めていく。</p> <p>&lt;重点目標5&gt; 学生募集活動の強化</p> <p>ホームページ及びパンフレットを刷新するとともに、Facebook、ツイッターを立ち上げ、学校行事や日々の学校生活の情報を定期的に配信する体制を整えた。また、学生募集支援システムを導入し、資料請求者や来校者へのきめ細かい継続的なフォローができるようになった。システム導入の効果として資料発送業務等の効率化を図ることができた。</p>

### 3 項目別評価

## 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項
<p>理念・目的・育成人材像は明確になっており、理念等に基づく学科が設置されている。また職業実践専門課程として認定を受けており、社会ニーズ、業界ニーズを踏まえた教育の提供に努めている。今後は、理念を実現するための具体的な将来構想、中期事業計画を策定し、教職員及び関連業界、保護者等のステークホルダーに対して周知を行っていくことが求められる。</p>	

## 基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項
<p>運営方針は理念等に沿って定められ、規程に基づく必要な組織を編成し、理事会・評議委員会での決定事項を受けて適切な運営が行われている。決裁手順は明確になっており、組織を編成する教職員の人事・給与に関する規程も整備されている。理念を実現するための中期事業計画、単年度事業計画の策定（予算・事業目標含む）、執行管理、評価を行える体制を整備することが課題である。</p>	

## 基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項
<p>教育活動は理念等に沿った教育課程が設置され、教育課程の編成方針及び教育達成レベルの目標を設定している。また教育課程編成委員会を定期的開催し外部の意見を反映させており、教育方法、成績評価、教育支援、教員組織についても関係法令に基づき適切に運用されている。今後は授業評価やキャリア教育の成果を検証する仕組みを構築し、教育活動の改善、質の向上に役立てていく。</p>	

## 基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項
<p>学習成果のうち就職率は全体として高い水準にあり、卒業生によるキャリアガイダンスや就職相談会などが開催している。一方で学科によって就職率の偏りがあるため、目標の達成に向けた就職支援が望まれる。資格取得率は毎年全国トップレベルの結果を修めており、呉竹鍼灸柔整専門学校の大きな特長となっている。卒業生の社会的評価の把握では、卒業生に対するアンケート調査、活躍する卒業生のインタビュー取材、求人提供企業や業界団体、治療院を通じた情報交流などにより把握している。</p>	



## 基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項
<p>就職支援、退学率低減、経済的支援、健康管理、学生寮等の支援体制を整備し、適切に運用している。課題として認識されている学生の課外活動（同好会等）に対する支援体制、保護者との連携体制（保護者会等）、卒業生のキャリアアップ・研究活動の支援については具体的な取り組みを進めていく。</p>	

## 基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項
<p>関係法令の基準を満たした適切な施設・設備となっており、社会ニーズに対応した教育備品が備わっている。また防災・安全管理については、消防計画に基づき防火管理者が置かれ、定期的な防災教育及び防災訓練が実施されている。教育環境のソフト面では、上海中医薬大学への短期留学、神奈川歯科大学での解剖見学、協力企業によるインターンシップを導入し、学生の主体的学習を積極的にサポートしている。</p>	

## 基準 7 学生の募集と受入

大項目総括	特記事項
<p>高校への進学説明会には年 80 回以上参加し、その都度高校の先生と情報交換をしている。平日の学校見学会に加え、土日には説明会を開催するなど見学者の受け入れ機会を充実させた。入学選考については、専修学校各種学校協会の入試倫理要項に従い、適切な時期に適切な方法で募集が行われ、高校生と社会人に配慮した入試制度を用意している。一方で養成校の増加、少子化等により受験者数が減少しているため、今後の募集対策が課題である。</p>	

## 基準 8 財務

大項目総括	特記事項
<p>法人の財務基盤は、学納金比率が高いことから募集状況の影響を受けやすい財務体質となっているが、翌年度繰越収入超過額はプラスとなっており、自己資金比率が高く、負債比率が低いことなど、安定した状況となっている。教育研究費等の比率も適切と考えている。</p> <p>収支・予算計画は法人事務局で一括編成し、理事会において決定している。執行管理は中間期に行って、期末に向けた執行管理を行っている。会計監査は適宜行われ、理事会において報告されている。財務情報については、規程に基づいて公開されており、貸借対照表、消費収支計算書及び資金収支計算書はホームページに掲載されている。中期目標や単年度事業計画に関連付けした予算書が作成されていないため、来年度から作成することとしている。</p>	

## 基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項
<p>関係法令を遵守した適正な学校運営がされており、法令に基づく所轄省庁への報告届出も適正に行われている。個人情報保護に関しては個人情報保護方針を策定し全教職員に周知している。学校評価については、自己点検自己評価及び学校関係者評価を実施しその結果を公表している。</p>	

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項
<p>地域住民やステークホルダーの方々に対してチャリティー鍼灸、チャリティーマッサージを行い、その収益の全部を被災地の義援金として寄付している。また「健康・医療」を題材とした公開講座を実施するなど学校の教育資源を活用した活動を展開している。今後は学生のボランティア活動の支援に関する規程を整備し、支援を推進していく。</p>	

## 4 次年度（平成28年度）の重点目標

### 重点目標

平成27年度の評価結果等を踏まえ、平成28年度の重点目標は次のとおり設定し取り組むこととする。

#### 1. 専修学校の質保証のための第三者評価認証の申請準備

##### (1) 文書主義の徹底

理念等に基づく諸規程の整備、決裁手順の明確化、教職員に対する規則の周知徹底と遵守、会議・研修等の記録・報告・保管を徹底し、教育活動及び学校運営のプロセスを第三者に対して合理的に説明・検証できるよう文書に基づく組織の行動管理を行う体制を構築する。

##### (2) 事業計画・予算書の策定

教育活動及び学校運営に関する各事業の具体的計画及び予算書の策定・執行管理を行い、その結果評価を事業報告書としてまとめる。

#### 2. 学修成果の指標となる国家試験合格率、就職率、中途退学率等に対する数値目標の設定、計画、管理、評価体制の構築

##### (1) 国家試験合格率100%の達成

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師、柔道整復師の各国家試験において全員合格を目指す。

##### (2) 就職率90%以上の達成

全学科を通して就職率90%以上を達成する。

##### (3) 中途退学率5%以下の達成

成績不良者に対する面談や補習、学習意欲を高めるためのキャリアガイダンス等を通して、退学者の低減を目指す。

#### 3. 新カリキュラムの策定

(1) 平成30年4月に予定されているカリキュラム改正の趣旨に沿って目標とする育成人材像を見直し、より質の高い医療従事者を育成するために必要な教育カリキュラムを策定する。

以上